

札幌市における公立夜間中学の在り方について（第二、三回資料）

1 札幌市の状況について

全国の公立夜間中学の状況を踏まえると、入学ニーズを持つ方は主に①戦後の混乱期等で義務教育を未修了の方、②不登校等様々な理由で十分に中学校に通えなかった方、③本国も含めて、義務教育を修了していない外国籍の方と想定され、札幌市においても夜間中学を必要とされる方が一定程度いるものと考えられる。

(1) 統計上の潜在的入学対象者

- ア 未就学者
平成 22 年国勢調査において、札幌市内の未就学者数は 2,001 名
- イ 不登校経験者
ここ 10 年間の札幌市立中学校 3 年生における不登校生徒数は合計 6,094 名
- ウ 外国籍市民
全国的に比較すると少ないが、ここ数年は毎年 1,000 人ずつ増えており、令和 2 年 6 月時点では、14,440 人となっている（過去最高は令和 2 年 2 月の 15,073 人）

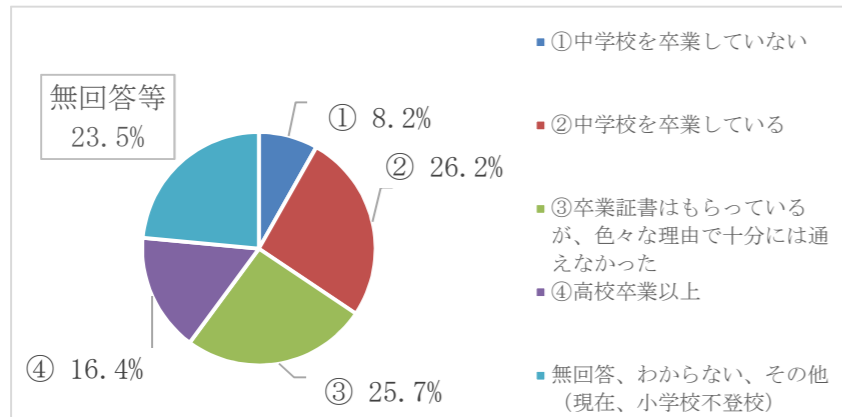
(2) 札幌市公立夜間中学に関するアンケート調査結果（概要）

- ア アンケート実施手法
 - (ア) アンケート A
札幌の自主夜間中学や不登校経験者の支援団体などの協力を得て、対象を絞ったアンケート調査を実施。
 - (イ) アンケート B
札幌市に住民票を置く 3,000 人の外国籍市民の方に無作為抽出でアンケート用紙を送付して調査を実施（言語は日本語、英語、中国語）
- ※ その他、すべての方を対象に札幌市 HP 上でもアンケート調査を実施

イ 調査結果

(ア) アンケート A

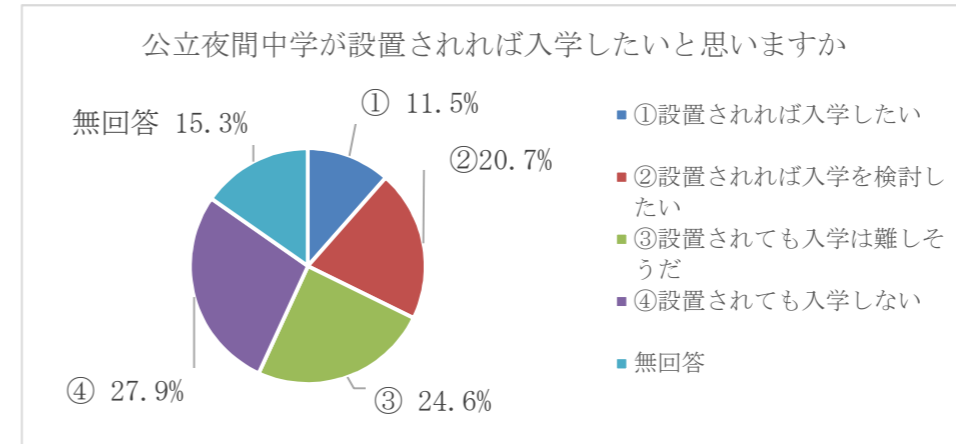
a あなたは中学校を卒業していますか



世代によってニーズが異なることから、高年齢層（60歳以上）とその他世代を分けて表示します

選択肢	全体回答		年齢別内訳			うち設問aで①、③と回答
	数	割合	高年齢層	その他世代	NA	
① 中学校を卒業していない	15	8.2%	14	1		
② 中学校を卒業している	48	26.2%	42	4	2	2
③ 卒業証書はもらっているが、色々な理由で十分には通えなかった（若しくは現在通っていない）	47	25.7%	7	39	1	1
④ 高校卒業以上	30	16.4%	24	6		
⑤ わからない、NA、その他（現在、小学校不登校）	43	23.5%	3	36	4	4
合計	183	100.0%	90	86	7	7

b 公立夜間中学が設置されれば入学したいと思いますか

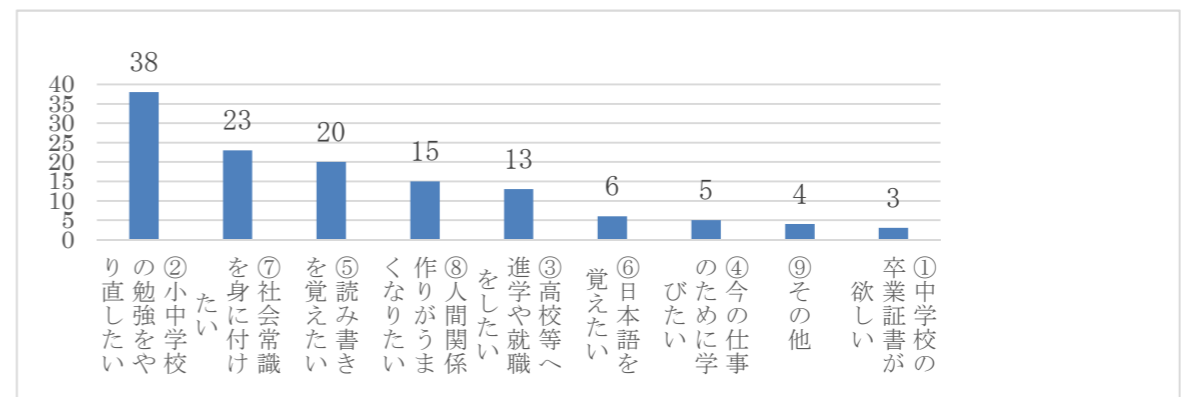


設問 a で①又は③を回答した方（十分に中学校で学べなかった方）を内数で表示

選択肢	全体回答		年齢別内訳			うち設問aで①、③と回答
	数	割合	高年齢層	その他世代	NA	
① 設置されれば入学したい	21	11.5%	14	7		8
② 設置されれば入学を検討したい	38	20.7%	13	23	2	16
③ 設置されても入学は難しそうだ	45	24.6%	33	12		14
④ 設置されても入学しない	51	27.9%	21	28	2	20
⑤ NA	28	15.3%	9	16	3	4
合計	183	100.0%	90	86	7	62

⇒ 一般的に入学対象とされる「十分に中学校で学べなかった方」だけでも 24 名の方が入学に前向きな回答をしており、公立夜間中学へのニーズが一定程度あることが確認できる。

c 入学を前向きに考えてみたい方に伺います。その理由を教えてください（複数回答可）

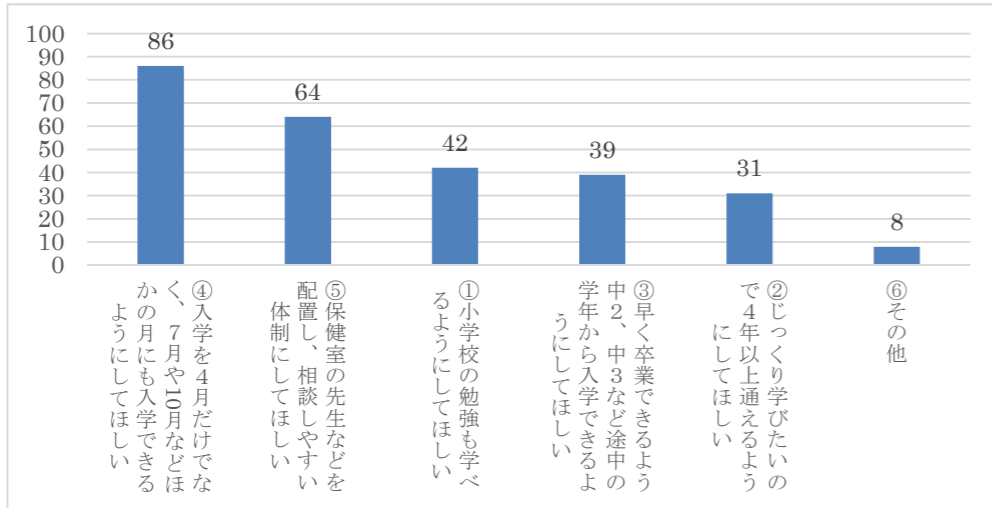


選択肢	全体回答		年齢別内訳			うち設問aで①、③と回答
	数	割合	高年齢層	その他世代	NA	
① 中学校の卒業証書が欲しい	3	2.4%	2	1	0	3
② 小中学校の勉強をやり直したい	38	29.9%	20	16	2	14
③ 高校等へ進学や就職をしたい	13	10.3%	2	11	0	6
④ 今の仕事のために学びたい	5	4.0%	0	4	1	0
⑤ 読み書きを覚えたい	20	15.7%	16	2	2	6
⑥ 日本語を覚えたい	6	4.7%	3	2	1	1
⑦ 社会常識を身に付けたい	23	18.1%	13	8	2	7
⑧ 人間関係づくりがうまくなりたい	15	11.8%	5	8	2	4
⑨ その他	4	3.1%	3	0	1	1
合計	127	100.0%	64	52	11	42

⇒ 高年齢層は生活するうえで必要な力の習得、その他世代においては、高校進学や就職などの次のステップにつなげるための力の習得を比較的求めており、ニーズに違いがある。

札幌市における公立夜間中学の在り方について（第二、三回資料）

d 公立夜間中学で実現してほしいことはどのようなことですか。以下の中から3つまで選んでください

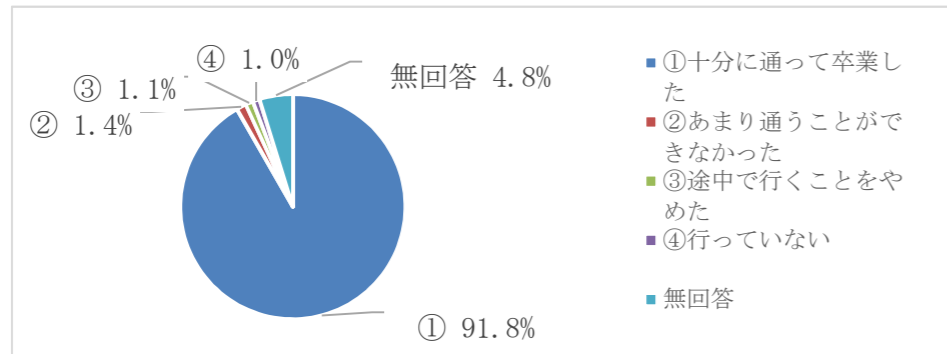


選択肢	全体回答		年齢別内訳			うち設問aで①、③と回答
	数	割合	高齢層	その他世代	NA	
① 小学校の勉強も学べるようにしてほしい	42	15.6%	20	21	1	20
② じっくり学びたいので4年以上通えるようにしてほしい	31	11.4%	20	11	0	13
③ 早く卒業できるように中2、中3など途中の学年から入学できるようにしてほしい	39	14.4%	7	30	2	18
④ 入学を4月だけでなく、7月や10月などほかの月にも入学できるようにしてほしい	86	31.9%	22	61	3	41
⑤ 保健室の先生などを配置し、相談しやすい体制にしてほしい	64	23.7%	13	48	3	30
⑥ その他	8	3.0%	3	5	0	6
合計	270	100.0%	85	176	9	128

⇒ 年齢層にかかわらず、柔軟な入学時期については、高いニーズを示している。また、高齢層は、じっくりと学びたいというニーズ、その他世代においては、自らの状況にあった入学の仕組みや相談体制の充実についてのニーズが高い。

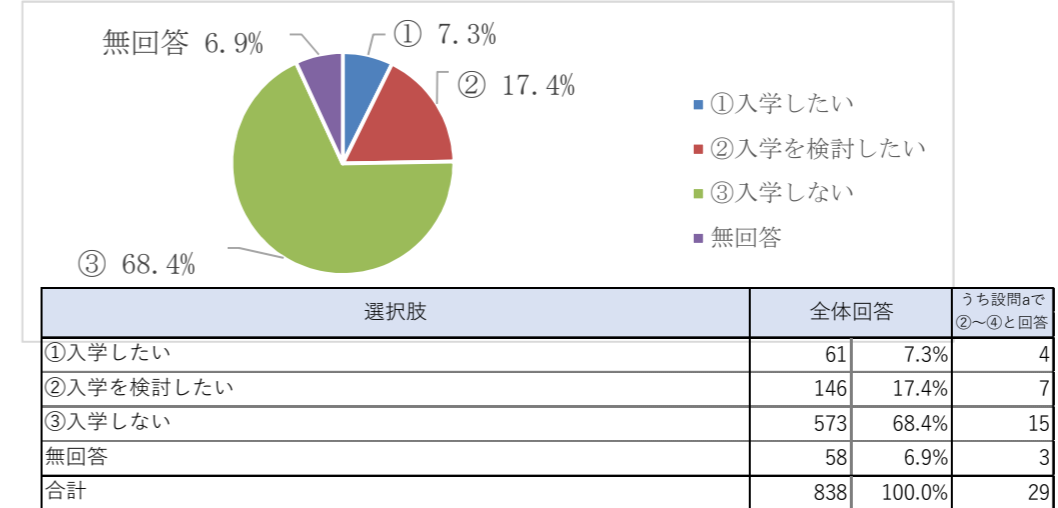
(イ) アンケートB

a あなたの中学校段階（13～15歳ころに通っていた学校、母国の学校など日本以外の学校も含まれます）の通学状況を教えてください



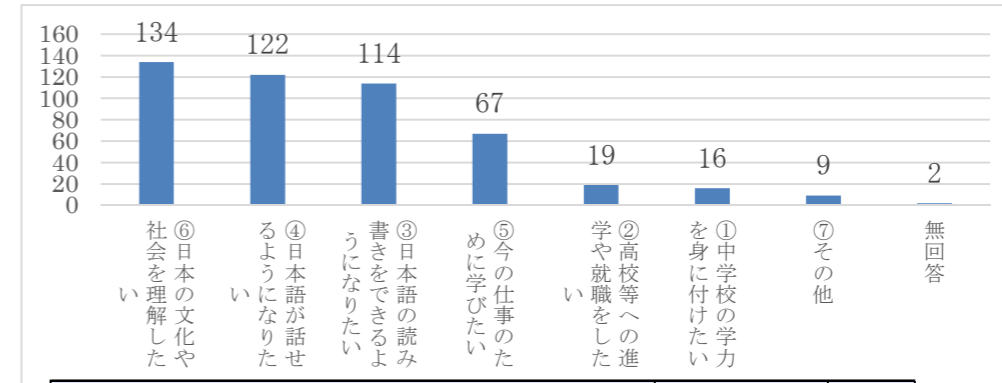
選択肢	数	割合
① 十分に通って卒業した	769	91.8%
② あまり通うことができなかった	12	1.4%
③ 途中で行くことをやめた	9	1.1%
④ 行っていない	8	0.9%
無回答	40	4.8%
合計	838	100.0%

b 札幌市は、夜に通うことができる、15歳以上の人の学び直しのための中学校を2022年に設置する予定です（授業時間は17時30～21時頃）。あなたはこの学校に通いたいですか。



⇒ 一般的に入学対象とされる「十分に中学校で学べなかった方」を対象と仮定すると、一定のニーズは確認できる一方で、他都市のように外国籍生徒が8割になる状況にはならないものと想定される。

c 公立夜間中学に入学したい、または入学を検討したい理由はなんですか（複数回答可）



選択肢	数	割合	うち設問aで②～④と回答
① 中学校の学力を身に付けたい	16	3.3%	3
② 高校等へ進学や就職をしたい	19	3.9%	2
③ 日本語の読み書きをできるようになりたい	114	23.6%	6
④ 日本語が話せるようになりたい	122	25.3%	4
⑤ 今の仕事のために学びたい	67	13.9%	1
⑥ 日本の文化や社会を理解したい	134	27.7%	7
⑦ その他	9	1.9%	0
無回答	2	0.4%	0
合計	483	100.0%	23

⇒ 外国籍市民のニーズとしては、日本の文化や社会の理解、日本語の読み書き、会話の習得が比較的高いことが確認できる。

○ 札幌市教育委員会が実施したアンケートのまとめ

- ◆ 高齢者層（未就学者層を含む）、その他世代（主に不登校経験層と想定）、外国籍層のすべての層に一定のニーズがある
- ◆ 本市において、公立夜間中学を設置した場合、他都市のように外国籍生徒が8割を占めることにはならないものと想定される（どの層も満遍なく在籍する可能性が高い）
- ◆ 各層ごとに学校に望むニーズは異なっている

札幌市における公立夜間中学の在り方について（第二、三回資料）

札幌市が設置する公立夜間中学の在り方について、以下の視点において、それぞれの立場の方々からご意見を頂戴したい。

1 札幌市が設置する公立夜間中学の目指す姿

【案作成の背景】

- ・入学対象に想定される方は、様々な理由で学齢期において十分に学ぶことができず、その後も基礎的な学力を身に付ける機会を得られず、何らかの困難を抱えているものと想定される。
- ・アンケート結果には、入学対象となる各層の方から様々な教育ニーズが挙げられており、学習の基礎基本にかかわる内容から、日本語指導、社会常識の習得、人間関係作りまで幅広いニーズが求められている。

⇒ 以上を踏まえると、夜間中学においては、義務教育のセーフティネットとしての機能が求められることから、『安心して学べる場』である必要があるとともに、札幌市で設置する公立夜間中学校においては、『学習者の多様な教育ニーズに対応できる場』を目指す姿としていく必要があると考える。

2 上記目指す姿の実現に向けた学校づくりの視点

(1) 学習者の多様な教育ニーズに対応するための基本的な考え方（案）

【案作成の背景】

- ・入学対象となる各層から入学希望の高かった項目として以下のニーズが挙げられており、幅広いニーズが求められている。
 - 高年齢層（戦後の混乱期等で義務教育を未修了の方を含む）
 - ① 小中学校の勉強をやり直したい
 - ② 社会常識を身に付けたい
 - ③ 読み書きを覚えたい
 - その他世代層（主に不登校等様々な理由で十分に通えなかった方）
 - ① 小中学校の勉強をやり直したい
 - ④ 高校等への進学や就職をしたい
 - ⑤ 人間関係作りがうまくなりたい
 - 外国籍層（主に本国も含めて、義務教育を修了していない方）
 - ⑥ 日本の文化や社会を理解したい
 - ⑦ 日本語が話せるようになりたい
 - ⑧ 日本語の読み書きをできるようになりたい

ア 学び直しの保障（①、③、⑧への対応）

それぞれの習熟の度合いや理解のスピードに対応するとともに、理解できる学習内容まで下げ、丁寧に時間をかけて対応する。習熟の度合いに対応するため、学習課題をスモールステップで実現できるよう、学習内容に小学校段階の学びを含めるなど、柔軟に設定。また、理解のスピードに対応するため、在籍可能な年限を3年以上に設定する。

イ 基礎・基本の定着（①、②、③、⑦、⑧への対応）

理解しやすい教材を開発し、知識を学ぶことに加え、知識を使いこなせるよう、知識を実社会と結びつけながら意味の理解を通じた知識の習得を目指す。また、ICT機器の活用など、様々な学習方法を実現しながら繰り返し学ぶことで知識の定着を促す。

ウ 社会性を育む学びの充実（②、⑤への対応）

実社会と結びつくような学習内容を積極的に取り入れた体験的な学習や、卒業後すぐに社会参加することなどを意識したSST（ソーシャル・スキル・トレーニング、社会生活技能訓練）の手法を用いた学習など、社会性を育む学びを充実させる。

エ 自己肯定感を高め、自信に結び付く支援（④、⑤への対応）

教師が生徒の可能性を信じ、生徒の伸びを積極的に認め、生徒とともに常に期待や希望を持ち続けられるよう励ます学習を推進。そのため、学習成果をきめ細かに確認し、成長を可視化することで、中学の学び直し内容に対する理解を進め、生徒の自信を高める学習を推進。

オ 日本語指導の導入（⑥、⑦、⑧への対応）

日本語に不安のある生徒が、日本語での学習に適應できるよう、日本語指導のカリキュラム開発に取り組み、系統的な日本語指導を導入。教科の学習はもちろん、特別活動における学校行事の実施など、日本の教育課程に準じた教育を実施。

(2) 安心して学べる体制づくりの基本的な考え方（案）

【案作成の背景】

・入学対象に想定される人は、様々な理由で学齢期において十分に学ぶことができず、その後も基礎的な学力を身に付ける機会を得られず、何らかの困難を抱えているものと想定される。

ア 少人数指導体制の充実

学習する教科等によっては、習熟度別にクラスを分けたり、一つのクラスで個別指導や少人数での指導を導入したりするなど、教科指導の教諭だけではなく、他の教諭等を加えた複数体制の実施について検討する。

イ 相談体制の充実

いつでも相談できるよう養護教諭の配置や、スクールカウンセラーを含めた相談指導体制を充実させるよう検討する。

ウ 学習支援体制の充実

少人数指導体制を充実させるとともに、学びのサポーターなどの学習ボランティアを活用するなど個別に丁寧に関わる体制づくりを検討する。

エ 生徒の身体的・金銭的負担への配慮

様々な事情を抱えた生徒の入学が想定されるため、教室移動に配慮するとともに、教材費などの経費を抑えるなど、生徒の負担軽減を検討する。

オ 日本語指導体制の充実

日本語指導の教材やICTを活用した学習を積極的に取り入れ、生徒の理解度に応じた複数の授業を実施するとともに、年間を通じて日本語を学ぶ授業を多くするなど、指導体制の工夫を検討する。また、通訳や補助者を適時活用するなどの支援体制について検討する。

カ 柔軟な入学体制

入学を希望する背景も様々な理由が想定されることから、入学時期についても4月のみに限らず、複数回の入学時期の設定や随時入学なども含めて検討するとともに、本人の社会生活や実務経験等を配慮して、2年生や3年生への入学や適切な進級の在り方についても検討する。

(3) その他必要な取組について

上記以外に、札幌市が設置する公立夜間中学に必要な取組についてのご意見があれば頂きたい。

MEMO